

松ぼっくり

2001年秋号

◆国松石材株式会社

発行所/国松石材(株)

本社 福岡市博多区下呉服町 8-35

営業本部 粕屋郡志免町南里 11-5

Tel 092-957-3500/Fax092-957-3505

呉服町 福岡市博多区中呉服町 6-1 善導ビル

ギャラリー Tel092-291-2454/Fax092-291-2456

墓石が「デジ」 福岡市東区香椎 472-3 (三日月山公園下)

Tel 092-672-7257/Fax092-672-7258

工場 福岡市東区松田 3 丁目 16-12

Tel092-629-1189/Fax092-629-2043

ホームページ http://www.kunimatu.com

◎特集

お彼岸



もうすぐお彼岸です。

毎年、春と秋の年二回、

私たちはお墓参りや先祖供養などの

お彼岸の行事を行っています。

しかしなぜ、春と秋なのでしょう。

なぜ、お墓参りや先祖供養をするのでしょうか。

そこで、今回は節信院の御住職に

お彼岸についてお話をうかがい、

勉強してきました。



節信院御住職 加藤昌弘師

彼岸とは・・・？

「お」をつけて「お彼岸」という場合、春秋の二季行われる仏教行事の「彼岸施餓鬼」「彼岸会」のことをいいます。

単に「彼岸」というときは、その名の通り「岸のむこう」悟りの世界、仏の世界を意味しています。

お経の般若心経の正式名は「摩訶般若波羅蜜多心経」といい、「波羅蜜多」は「到彼岸」と訳され、苦しみの多いこの現実世界（此岸）から、仏の理想の世界（彼岸）に到達する、という意味があります。

また、最後の「羯諦羯諦波羅僧 羯諦（ぎやあていぎやあてい）は漢文ではなく呪文＝真言で「さあ、みんな

一緒に参りましょう。迷いの岸から悟りの岸へ」ということを唄っています。

お彼岸には何をするのでしよう？

お彼岸は、他の仏教国、インドや中国にはなく、日本独自のものです。起源は聖徳太子の頃といわれています。

この時期には、お墓参りをし、お寺に行って法話を聞き、お経を読むなどの仏事をおこないましょう。

なぜ春分の日、秋分の日がお彼岸になったのでしよう？

春分・秋分の日を中日として前後三日間を合わせた一週間が「お彼岸」です。でもなぜ、春分・秋分なのでしょう。

「暑さ寒さも彼岸まで」と言う言葉もあるようにお彼岸の時期は気候的に過ごしやすい時期です。さらに、昼と夜の長さが同じになることから、「中庸を得た」といわれ、悟りやすいと言われているようです。

なぜぼた餅、お萩を供えるのでしょうか？

昔は、よく各家々でお餅をついていました。お餅は一番庶民に親しまれたお菓子であり、手近に用意できるものでした。後に小豆などが用意できるようになり、いまのぼた餅、お萩になったと思われるかもしれません。もつと初期の頃はふかしまんじゅうをお供えしていたようです。

仏教事典で「彼岸」をひいてみると、「日常の苦しい生活を脱し、楽しい精神生活を送るために、仏法を聞き、行いを正しくする日。」とあります。本来は先祖供養の為ではなく、自分自身を豊かにする為の期間だったようです。

自分自身を大切にすること、これは、自分につながるご先祖を大切にすること。またご先祖を大切にすること、これは、今の自分を大切にすることです。

お彼岸は、年に二回、自分を見つめ直すのに良い期間なのかもしれないですね。

お彼岸豆知識

■ぼた餅とお萩

基本的には、お餅があんこの中にはいつている場合をぼた餅といい、ご飯（もち米を握ったもの）である場合をお萩といいます。また、春に作るのがぼた餅で、秋に作るのがお萩であると言われています。これは、ぼた餅は牡丹の季節に、お萩は萩の季節に作るもの、ということからきています。



■春分の日と秋分の日

春分日・秋分日とは、天文学で「春分点・秋分点」と呼ばれる点を、太陽が通過する日のことをいいます。しかし、この春分点・秋分点は毎年少しずつ変化するので、現在は、実測により国で修正しています。

祝日の春分・秋分の日は、国立天文台が作成する暦象年表という小冊子に基づき、閣議で決定されます。前年の二月一日付の官報に発表されたものが正式に「春分の日・秋分の日」となります。

取材ご協力ありがとうございました。

臨済宗妙心寺派

節信院

節信院は筑前勤王派の指導者、福岡藩中老加藤司書公の先祖、加藤重徳が隠居寺として黒田家から賜ったもので、加藤家の菩提寺です。



■節信院

〒812-0027
福岡市博多区御供所町11-20
☎(092) 281-4182

最終ページ地図①

町名散歩

① 旧蓮池町



皆さんも博多の町の至る所で、こんな石碑を見たことはありませんか。

この石碑は、西鉄電車の道路に敷き詰められていた石を削って作られたもので、旧町名や名所、遺跡などが記されています。（最終ページ地図②）

第一回目は、国松石材呉服町ギヤラリー
—近くの善導寺様の前に作られている石碑を紹介します。

石碑の表には、「旧蓮池町」と記され、「初め寺町という 元文年間（一七三六—四〇）よりひらく」とあります。



蓮池町は、石堂川（御笠川）に最も近い博多の縦筋の町で、石堂流に属しています。町内には、たくさんのお寺があり、寺町ともいわれていました。これらのお寺は江戸時代の頃、万一の場合の敵に対する兵の宿舎や、兵站地（※1）とするために集められたといわれています。明治四十三年の市内電車開通で町は中断されましたが、昭和二十年の空襲は免れることができたため、今も戦前の町並みを残しています。また、町内改正で北は中呉服町、南は上呉服町に編入されました。

そんな呉服町は、忙しい博多の都会の中でほっと心落ち着く風情のある町でした。

天気の良い日に、このような石碑をたどりつつ、町並みをゆっくり見ながらお散歩するのもいいですね。

※1 戦場の要地に設ける連絡地点

博多にわが



「国松さんもし。お墓の寸法は間違いなかつな。」

「そらあ、計って（墓）造りよります。」

「お墓造りはよっぽど良か人は選ばなばい。」

「そらあ、お墓のことじゃけん、選考（線香）も大事じゃろう。」

お題「国松石材」でお客様の松崎真治様に作って頂きました。

お墓の耐震対策

芸予地震レポートと耐震対策の現状

近年、日本各地で地震の発生が報告されています。一九九五年の阪神・淡路大震災、そして、今年三月二十四日に発生した芸予地震は、九州に近いこともあり、記憶に新しいことでしょう。

今回は、芸予地震の被害状況の報告と、現在のお墓の耐震対策について考えたいと思います。

では、お墓の被害は、どうなっていたのでしょうか。

写真は、広島県の被害状況です。今回「日本石材工業新聞社」様より写真をお借りいたしました。

上の2枚の写真は、広島県大野町宮島口の御室山墓地です。約七百基の墓のうち五百基以上が倒壊していたそうです。下の写真は、広島県大崎町の大西区の墓地です。ここでも墓石等の被害は広域的でした。



あちこちで天幕が見られ修復作業をしています。
—広島県大野町御室山墓地—



墓石修復にはかなりの日数がかかります。
—広島県大崎町の大西区の墓地にて—

芸予地震より被害があった阪神大震災の後で神戸市の耐震施工は、積極的に行われたのでしょうか。月刊「石材」には、残念ながら現状は、「消極的」であるといわざるを得なかったと報告されています。日常の生活がままならないのに、何時くるかわからない地震の対策なんて出来ない。と思われるからでしょう。

現在、地震の少ない九州の墓石業界では、積極的な耐震対策の討論は希有です。また、実際にお墓を建立される

方も耐震対策を重視されている方は少ないようです。それは、地震の被害の報告が正確に伝わっていないこと、施工される耐震対策が将来的に石に傷をつけないものであるのか。どの規模の地震まで耐えられるのか。という基本的な疑問の研究があまりなされていないことに原因があります。

現在の施工は、ステンレス鋼棒やステンレスパイプなどを中台、上台、竿石にあけた穴に差込み、モルタルや接着剤を注入して、転倒を防止する方法がなされています。

日本列島に住む我々は、大小にかかわらず地震に対する対策は必要です。それは、墓石にもいえることでしょう。遅れている墓石の耐震対策は、これからの墓石業界の課題です。今後機会があれば随時最新の耐震情報を御紹介したいと思っております。

「お墓の耐震対策」に「意見・感想等」がありましたら、同封のはがきにてお寄せ下さい。

福博歴史館

謝国明

(生没年月日不詳)

NHK大河ドラマ「北条時宗」でもお馴染み、北大路欣也扮する謝国明は当時、博多で活躍していた宋出身の貿易商兼船主です。アジア広域に渡って活発に貿易を行い、国際感覚に優れた人でした。

宋より帰国した聖一國師に帰依し、一二四二年、承天寺(博多駅前一丁目)を建立。この寺の開山・聖一國師とともに、日宋貿易や宋への留学の援助をおこなっていました。その国際交流の中から数々の文化が花開き、うどん、そば、博多織などが誕生したといわれています。

私たちが年末に食べる運ソバ(年越しソバ)も謝国明が始めました。

ある年の大晦日、謝国明は、悪疫と飢饉に苦しんでいた博多町民に、承天寺に集まるよう布令を出し、カユノモチ(そばがき)を振舞いました。これを食べて元気になった博多町民が迎えた新しい年は非常にいい年であったため、「あのソバから運がついた↓運ソバ」というようになったと伝えられています。謝国明のお墓は「出来町集会所」の

庭にある巨大な楠の古株の中にあるといわれています。(下段地図③)墓の傍らに植えた楠の木が、めきめきと成長し、終にはお墓を飲み込んでしまったそうです。隣では戦後植えられた楠が大きく枝葉を広げています。



庭の隅にある由緒碑

呉服町ギャラリーOPEN!



呉服町ギャラリーが平成13年6月に展示場としてオープンしました。

以前、営業本部として使用していたこともあり、場所をご存知の方もおられることと思います。

呉服町ギャラリーは、墓石のほか石の小物なども展示販売しておりますので近くをお通りの際は、是非お立ちより下さい!

もちろん墓石に関することなどご相談もお待ちしております。

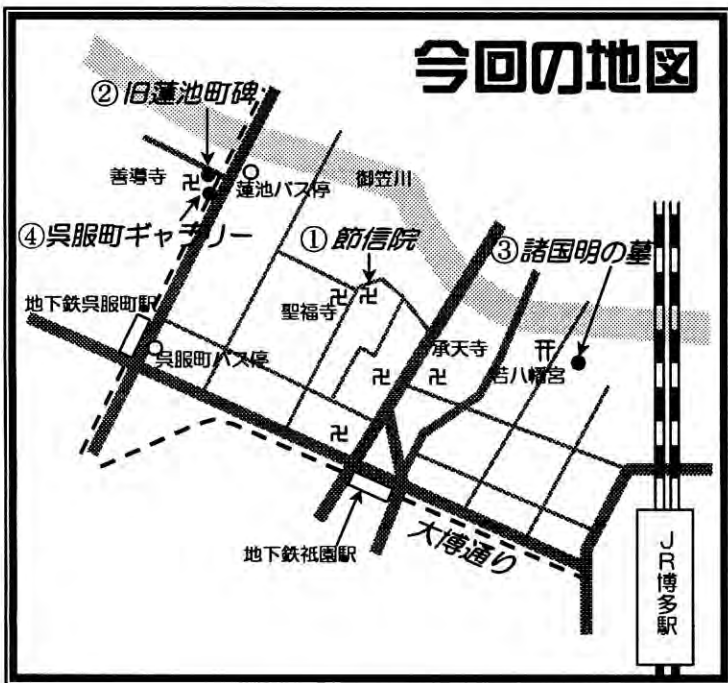
☆☆呉服町ギャラリー☆☆

福岡市博多区中呉服町6-1 地図④

Tel (092)291-2454 Fax (092)291-2456

7/11 0120-245400

今回の地図



アンケートにお答えいただいたお客様の中から抽選で素敵なプレゼントをご用意させていただいております。詳しくは同封のハガキをご覧くださいませ。たくさんのご応募お待ちしております。

